

訪日クルーズ客 100万人

今年2.4倍 目標5年前倒し

博多港に接岸したクルーズ船から下りる外国人旅客ら（8日午前）



博多港で式典華やかに

同日午前9時ごろ、イタリアの大手クルーズ会社「コスタセレーナ」（乗客約3450人）が、中国・上海発

同日午前9時ごろ、イタリアの航海の途中で同港に寄港し、100万人を達成した。100万人目の博多人形を受け取った。張さんは「家での

訪日は初めて。（手荷物制限のない）クルーズなので炊飯器も買って帰りたい」とほほ笑んだ。式典では福岡市の高島宗一郎市長が「100万人の半分は博多港での入国だ。また来たいと思っ

自然や文化の魅力も発信して（訪日観光の）幅を広げたい」と述べた。政府は6月にまとめた「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」に、20年に訪日クルーズ客を100万人に増やす目標を盛り込んでいる。

訪日クルーズ客はすでに、昨年1年間の実績（約41万6千人）の2・4倍の水準。日本政府観光局によると、今年1～10月の訪日外国人は1631万人で、年間で見るとクルーズ客は全体の5%程度に達する。

2015年にクルーズ船で日本を訪れた外国人の累計人数が8日、100万人となった。国土交通省は同日、100万人目が上陸した博多港（福岡市）のクルーズセンターで記念式典を

開催。会場ではくす玉が割られ、華やかな雰囲気広がった。政府の訪日クルーズ客数の目標を5年前倒しで達成し、訪日客全体の底上げにも弾みがきこえた。

クルーズ人気は中国で広がっており、訪日クルーズ客の大半は中国人とみられる。中国に近い九州や沖縄に寄港が集中している。同地域では15年の寄港数が800回超と、前年比で8割増える見通しだ。